

第33回 全日本自閉症支援者協会 研究大会（埼玉大会） 開催要項

1. 大会趣旨

『令和元年！

節目の年を迎えて、原点の再確認と、生涯を支える切れ目のない支援の構築を！』

令和元年が示すように、今年は「気淑く、和やかな」節目・転換・飛躍の年！

全国の親が結集して設立した「日本自閉症協会」は、設立51年目に入り、「全日本自閉症支援者協会」は、発足32年目を迎えました。

今から51年前は、発達支援の場は皆無とあってよく、義務教育からも締め出されていた自閉症のある子どもたちに親が願ったのは、「生涯を支える切れ目のない支援、人として当たり前の豊かな生活を」でした。親たちが発起人となって設立した施設が全国で8カ所できたところで発足した「全自者協（当時は、全国自閉症者施設連絡協議会）」もまた、「自閉症者の人権と生きるための発達保障・自立・社会参加の実践と研究の推進」をめざし、福祉制度の谷間にある自閉症の人たちの支援を支援する立場から、先駆的に実践してきました。

51年という歳月は、「わが子らに居場所を、豊かな生活を」と、素手で扉をたたき、制度に繋げてきた親たちの高齢化を意味します。別のことばでいえば、それは、「親の思いを支援者に託すべき節目の年。支援者は、その思いを受け継ぎ、さらに飛躍させていく転換の年」であることを意味してはいるのではないのでしょうか。

その転換期にあたって、原点の再確認とは、一つは、これまで取り組み、蓄積し、到達した実績・英知を明らかにし、自閉症のある方々が、困難さを抱えながらも地域社会の中で、人としての尊厳をもって豊かな生活が送れているのかを実証し、共有することに他なりません。そして、もう一つは、これらの蓄積・英知を基に、残された課題を明らかにするとともに、支援の根幹を継承・飛躍させていくことだと考えます。

彼ら自身も高齢化していく中、地域の中で、切れ目なく生涯を支えるために、継承すべきもの、構築すべきものを共に考えていきたいと思えます。

2. 主催 一般社団法人 全日本自閉症支援者協会

＜開催担当 全日本自閉症支援者協会 関東ブロック施設＞

- ・社会福祉法人梅の里「あいの家」 ・社会福祉法人ぐんぐん「ぐんぐん」
- ・社会福祉法人昭和ゆたか会「ライフ」 ・社会福祉法人榎の里「いすみ学園」
- ・社会福祉法人菜の花会「しもふさ学園」 ・社会福祉法人いちょうの里「みずほ学園」
- ・社会福祉法人嬉泉「おおらか学園」「子どもの生活研究所めばえ学園」「袖ヶ浦のびろ学園」
「袖ヶ浦ひかりの学園」「児童発達支援センターヒツジ」「地域生活支援センターたのしみ」
「東京都発達障害者支援センタートスカ」「板橋区立赤塚福祉園」・一般社団法人 親泉会
- ・社会福祉法人せたがや檜の木会「世田谷区立下馬福祉工房」
- ・社会福祉法人正夢の会「昭島生活実習所」 ・社会福祉法人滝乃川学園「滝乃川学園児童部」
- ・社会福祉法人東京都手をつなぐ育成会「ひだまりの里きよせ」
- ・社会福祉法人啓光福祉会「啓光学園」・社会福祉法人ひとふさの葡萄「ほっとらんになぐ」
- ・社会福祉法人まつど育成会「まつぼっくり」
- ・NPO法人だいち「ライフステーション樹もれび」
- ・社会福祉法人けやきの郷「初雁の家」「ワークセンターけやき」（大会主管施設）

3. 後援 ・埼玉県 ・川越市 ・一般社団法人日本自閉症協会 ・埼玉県自閉症協会
・公益財団法人日本知的障害者福祉協会 ・埼玉県発達障害福祉協会
・一般財団法人日本発達障害ネットワーク ・日本自閉症スペクトラム学会
・発達障害者支援センター全国連絡協議会

4. 期日 令和元年11月7日(木)～8日(金)

5. 会場 川越プリンスホテル
〒350-8501 埼玉県川越市新富町1-22 TEL 049-227-1111
(西武新宿線「本川越駅」直結)
(東武東上線「川越市駅」徒歩約5分)
(JR線&東武東上線「川越駅」徒歩約10分)
※「情報交換会」も同会場にて開催いたします

6. 参加対象者 全日本自閉症支援者協会会員施設職員 知的障害者関係施設職員
家族(保護者) その他関係機関職員等

7. 定員 300名(申込締切日:10月7日(月))
(定員の関係がありますので会員を優先に申し込み受付とします。また定員に達しましたら
募集を終了しますのでご了承ください。)

8. 参加費 【会員】両日参加 10,000円
一日のみ 7,000円
【非会員】両日参加 11,000円
一日のみ 8,000円

※情報交換会 9,000円(会員・非会員とも)

9. 参加申込先 西武トラベル株式会社 『全日本自閉症支援者協会研究大会埼玉大会』係
(受付担当:伊藤・吉澤 渉外担当:廣岡)
〒105-0003 東京都港区西新橋1-14-2 新橋SYビル3階
営業時間:平日9時30分～17時30分
(土曜日・日曜日・祝祭日はお休みとなります)
TEL:03-6743-7171 FAX:03-6743-7186
E-mail: zenjisyakyo.saitama@seibutransel.co.jp
申込受付開始 令和元年9月2日(月)

10. 大会事務局 社会福祉法人けやきの郷(担当:水野・内山)
〒350-0813 埼玉県川越市平塚新田高田町162
TEL 049-232-6363 FAX 049-232-6367
E-mail Jiheiken33@gmail.com

11. 日程

時間	1日目（11月7日・木曜日）	時間	2日目（11月8日・金曜日）
9:00	実行委員会集合	9:00	受付開始
		9:30 (120分)	シンポジウム テーマ 「未来への継承～自閉症児者支援のさらなる発展を目指して～」 【話題提供者】 ・水野佐知子（岐阜県自閉症協会） ・松上利男（全日本自閉症支援者協会） ・加藤永歳（厚生労働省） 【司会（コーディネーター）】 ・石井啓（全日本自閉症支援者協会） 【指定討論者】 ・日詰正文（国立のぞみの園）
		11:30	閉会式
12:00	受付開始	12:00	昼食
13:00	開会式 主催者挨拶 来賓挨拶 他	13:00 (180分)	分科会 ・第1分科会 「切れ目のない支援体制を地域で構築・実践するために」 ・第2分科会 「個々を理解した豊かな生活のために（行動障害への支援）」 ・第3分科会 「自閉症者の安定した就労（活動）とその支援～働きは人生の柱～」 ・第4分科会 「職員の定着促進のヒントを探して～就活から定着まで気持の変化を追って～」 ・第5分科会 「親から支援者・地域へのバトンタッチ（生涯を支えるために）」
13:30 (40分)	行政説明 ①文部科学省 田中裕一 ②厚生労働省 加藤永歳		
14:10 (60分)	大会記念インタビュー 阿部叔子（けやきの郷） 牧嶋博子（TBS）		
15:10	休憩（15分）		
15:25 (60分)	基調講演① 「自閉症支援の歩みと到達点 ～福祉の視点から～」 志賀利一（横浜やまびこの里）		
16:25	休憩（15分）		
16:40 (60分)	基調講演② 「自閉症支援の歩みと到達点 ～医療の視点から～」 市川宏伸（日本自閉症協会）	16:00	終了
17:40	連絡伝達		
18:40 (120分)	情報交換会		

12. 概要

◆ 11月7日 (1日目)

行政説明 13:30～14:10
①文部科学省 ・田中裕一 (文部科学省 初等中等教育局 特別支援教育課 特別支援教育調査官 (発達障害専門))
②厚生労働省 ・加藤永歳 (厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 障害福祉課 障害児・発達障害者支援室 発達障害対策専門官)

大会記念インタビュー 14:10～15:10
テーマ 「わが子、そして同志と共に ～扉を開けて、未来へつなぐ～」 【発表者】阿部叔子 (社会福祉法人けやきの郷 理事長) 【インタビュー】牧嶋博子 (TBS報道局解説・専門記者室長)

基調講演① 15:25～16:25
テーマ 「自閉症支援の歩みと到達点 ～福祉の視点から～」 【講師】志賀利一 (社会福祉法人横浜やまびこの里 相談支援事業部長)

基調講演② 16:40～17:40
テーマ 「自閉症支援の歩みと到達点 ～医療の視点から～」 【講師】市川宏伸 (一般社団法人日本自閉症協会 会長)

◆ 11月8日 (2日目)

シンポジウム 9:30～11:30
テーマ: 「未来への継承 ～自閉症児者支援の更なる発展を目指して～」 【司会 (コーディネーター)】 ・石井啓 (一般社団法人全日本自閉症支援者協会 副会長) 【発表者】 ・水野佐知子 (岐阜県自閉症協会 会長) ・松上利男 (一般社団法人全日本自閉症支援者協会 会長) ・加藤永歳 (厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 障害福祉課 障害児・発達障害者支援室 発達障害対策専門官) 【指定討論者】 ・日詰正文 (独立行政法人国立重度知的障害者総合施設 のぞみの園 事業企画局 研究部長)

分科会 13:00～16:00	
第1分科会 (分科会記号①)	「切れ目のない支援体制を地域で構築・実践するために」
第2分科会 (分科会記号②)	「個々を理解した豊かな生活のために」 (行動障害への支援)
第3分科会 (分科会記号③)	「自閉症者の安定した就労(活動)とその支援 ～働きは人生の柱～」
第4分科会 (分科会記号④)	「職員の定着促進のヒントを探して ～就活から定着まで気持ちの変化を追って～」
第5分科会 (分科会記号⑤)	「親から支援者・地域へのバトンタッチ(生涯を支えるために)」

(分科会詳細)

第1分科会：テーマ 「切れ目のない支援体制を地域で構築・実践するために」
担当施設：社会福祉法人滝乃川学園 社会福祉法人嬉泉
【分科会趣旨】 障害児者が地域生活をおくるにあたって、切れ目のない支援体制の構築をはじめ、福祉と教育の連携、インクルージョン教育、障害者の就労など、理念として近年あげあげられてきました。この分科会では、実際に地域で支援活動を行っている実践報告から、成果や課題、今後の展望など児童期の支援から成人の支援まで、自閉症児者の社会生活を支える地域での支援のありかたを考える機会にしたいと思います。また、地域での支援の中心的な役割を果たしていく発達障害者支援センターの働きに関しても、情報交換や活動の方向性の検討等を参加者と行いたいと考えています。
【司会】 ・沼倉実（社会福祉法人嬉泉 おおらか学園 施設長）
【講義及び助言者】 ・本多公恵（社会福祉法人滝乃川学園 地域支援部施設長）
【発表者】 ・小池誠（社会福祉法人滝乃川学園地域支援部 相談支援センターみなも 副科長） 加藤千陽（社会福祉法人滝乃川学園 滝乃川学園児童部 若葉寮 支援スタッフ） ・山根和史（社会福祉法人北摂杉の子会 大阪府発達障がい者支援センターアクトおおさか センター長）

第2分科会：テーマ 「個々を理解した豊かな生活のために」（行動障害への支援）
担当施設：社会福祉法人正夢の会 社会福祉法人せたがや樫の木会 社会福祉法人東京都手をつなぐ育成会 社会福祉法人啓光福祉会
【分科会趣旨】 自閉症児者支援を進めるにあたって、一人ひとりを理解しながら、発達や成長を考えることは、とても大切なこととなりますが、支援の場面においては、行動障害と言われる対応への困難さなども感じながら、支援を行っているところも実際かと思えます。本分科会では、児童期・成人期の入所支援及び日中の生活介護事業所での行動障害に対する支援をそれぞれの視点で紹介し、行動障害の支援の在り方を学びたいと思います。また、行動障害に対して支援する職員の育成という点においても視点をおき、東京都で実践している「強度行動障害アドバンス研修」や「施設コンサルテーション」などの具体的な取り組みの話題も交えて、本分科会は進めて参りたいと思います。
【司会】 ・川名あき（社会福祉法人せたがや樫の木会 世田谷区立下馬福祉工房 施設長）
【コーディネーター】 ・山本あおひ（社会福祉法人正夢の会 事業統括）
【発表者】 ・橋本真矢（社会福祉法人啓光福祉会 啓光学園 生活支援員） ・安部学（社会福祉法人東京都手をつなぐ育成会 清瀬育成園ひだまりの里きよせ エット支援リーダー） ・小久保匡広（社会福祉法人正夢の会 昭島生活実習所 支援課長）

第3分科会：テーマ 「自閉症者の安定した就労(活動)とその支援 ～働きは人生の柱～」
担当施設：社会福祉法人ひとふさの葡萄 社会福祉法人けやきの郷
<p>【分科会趣旨】</p> <p>自閉症の人たちにとっての「活動、働くことの意味」とは何なのか。活動、働くことを支えるときに「必要な支援」とは何か。障害者雇用に注目が集まる中、自閉症のある方々への就労支援の幅も大きく広がっています。また、支援の対象となる方も知的障害のある方から高機能の方と幅広くあります。本分科会では、知的障害のある自閉症の方々への活動支援や働くことへの支援、高機能の自閉症の方々への就労支援の具体的な実践事例を通じて、自閉症者への働くことを支える上で必要な支援について検討したいと思います。</p>
<p>【司会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三尾馨（社会福祉法人ひとふさの葡萄 理事長） <p>【助言者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・志賀利一（社会福祉法人横浜やまびこの里 相談支援事業部長） <p>【発表者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山田雄介（社会福祉法人侑愛会 ねお・はろう 支援員） ・上田智華（社会福祉法人めひの野園 ウォーム・ワークやぶなみ 主任生活支援員） ・藤井知亨（国立障害者リハビリテーションセンター 就労移行支援課 発達障害支援室 就労定着支援専門職） ・中村有志（国立障害者リハビリテーションセンター 就労移行支援課 発達障害支援室 作業療法士）

第4分科会：テーマ 「職員の定着促進のヒントを探して ～就活から定着まで気持ちの変化を追って～」
担当施設：社会福祉法人榎の里 社会福祉法人いちょうの里 社会福祉法人菜の花会 社会福祉法人嬉泉
<p>【分科会趣旨】</p> <p>「福祉は人」と言うように、対人支援の質が人材の確保育成にかかっていることは異論のないところと思います。福祉職場の人材確保に関しては、個々の事業所単位、法人全体で様々な工夫や試みがなされてきました。しかしながら、施設側が求める人材を安定して確保することは年々難しくなっており、定着促進や人材育成の努力も、暗中模索の状態にあるように思われます。そうした現状にあって、職員の意識や思いの紹介、地元高校の介護職希望の生徒・先生への啓発活動の紹介、さらに職層間の相互理解やキャリアアップ指向の醸成等を狙った職員の役割交換の試みを紹介し、今一度、就職前から入職、その後の育成・定着にわたる課題やヒントを探してみたいと思います。</p>
<p>【司会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・與那嶺泰雄（社会福祉法人菜の花会 しもふさ工房 施設長） <p>【発表者①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大森太貴（千葉県立大原高等学校 教諭） ・木下昭二（社会福祉法人三気の会 三気の里 施設長） <p>【発表者②】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山口秀一（社会福祉法人いちょうの里 みずほ学園 副施設長） ・工藤直也（社会福祉法人菜の花会 しもふさ学園 支援員） ・斉藤瞳（社会福祉法人嬉泉 袖ヶ浦ひかりの学園 主任支援員） ・深井務（社会福祉法人いちょうの里 みずほ学園 支援員） ・加茂正和（社会福祉法人榎の里 いすみ学園 支援主任・GHサービス管理責任者）

第5分科会：テーマ 「親から支援者・地域へのバトンタッチ(生涯を支えるために)」

担当施設：社会福祉法人梅の里 社会福祉法人ぐんぐん 社会福祉法人昭和ゆたか会

【分科会趣旨】

生涯を支える切れ目のない支援の構築には、何が必要かをテーマとします。どんなに重くても、年齢を重ねても、地域で当たり前に住みたいという思いに、私たちはどのような支援・体制を積み重ねていかねばならないのでしょうか。そして、労働人口の減少も含めて『人としての当たり前の豊かな生活』を切れ目なく提供していくためには、ソフト面・ハード面でも今、何が求められるのでしょうか。この分科会では、先駆的な取り組みから今後の展開や課題を学び、フロアーからも日々の実践の中での課題や工夫について出させていただき、生涯を支えるために何が必要かを参加者の思い（働く側のやりがい）も含め、共有していきたいと思います。

【司会】

・塚田敦史（社会福祉法人梅の里 あいの家 主任）

【コーディネーター】

・高松秀彦（社会福祉法人梅の里 あいの家 理事長）

【発表者】

・高橋理恵（独立行政法人国立重度知的障害者総合施設 のぞみの園 生活支援部特別支援課
しらかば寮 副寮長）

・吉岡幸輝（社会福祉法人はるにれの里 共同生活援助事業所やすらぎ 課長）